

# 【陶芸】板づくりによる器の制作 千葉県立白井高等学校 教諭 宮崎 浩子

講座：工芸Ⅱ 2単位 24+18+5=47名 授業時間：14時間 材料費：500円程度

## ☆この授業で付けたい力

日常使用できる器を、その使用目的や場所・人などから発想し、板づくりの技法により、イメージした形の型紙を工夫して計画的に成形する力。身のまわりにある器の形や装飾に関心を持ち、その意味や美しさを感じ取る力。

## ☆ねらい

板づくりは、たたら板を使って一定の厚みの粘土板をつくり、型紙を使って形を切り取り、曲げたり組んだりして成形するため、計画的に取り組みやすい技法である。身近で使われている焼き物の形や機能に目を向け、紙で展開図を起こし試作することにより、目的や用途に沿った出来上がりをイメージしながら制作させる。

また、装飾として吹き墨技法による絵付けを取り入れることにより、日本の伝統的な染付けから日常使用している量産食器の装飾まで、さまざまな装飾効果に興味関心を持たせる。板づくりの制作を通して、焼き物作りの一連の流れと素材の持つ特質を理解させ、身近で役立つ器づくりを体験し、作る喜びを味わう。

## ☆材料

粘土：(信楽特練り) ジョイフル本田で購入 特練りは多少粗めではあるが失敗が少ない。

絵付け用絵の具：陶芸本焼き絵の具(チューブ入り)、

陶芸用下絵の具(粉末)〔海へき呉須、古代呉須、黒呉須、茶呉須〕

絵付け道具等：溶き皿、筆各種、スパッタリング用網・ブラシ、マスキングテープ、ニードル、スポンジ、  
カッターマット、溶き水(ふのり or 茶汁入り)

釉薬：透明釉

## ☆展開(時間) 指導上の留意点

内容	時間	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
導入 焼き物とは	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼き物の歴史や種類、身近な工芸品を鑑賞、焼き物の性質と板づくりの制作工程を把握。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料で焼き物の歴史や種類を紹介。</li> <li>・板づくりを実演して、制作の手順について説明。</li> </ul>
展開① 発想・構想 成形準備	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板づくりの技法を生かし、目的・用途にあったデザインを発想。</li> <li>・アイデアスケッチ</li> <li>・紙で試作、実物大の型紙作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見本の作品や型紙を用意し実演する。</li> <li>・目的・用途に沿っているか、板づくりが可能か、型紙で試作点検指導。</li> <li>・収縮率や粘土の厚みを考慮させる。</li> </ul>
展開② 制作：成形 板づくり	4	<p>成形</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・固まりから粘土の板を切り出す。</li> <li>・部品を切り組み立てて接着する。</li> <li>・高台つけ、 装飾(彫り、刻印、貼付)</li> <li>・使用後の残り粘土の後始末</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の粘土は練ったものを用意。</li> <li>・作業工程を細かく実演する。</li> <li>・粘土の板作りは、班で進めさせる。</li> <li>・制作状況を個別に点検指導。</li> <li>・作品の保管・乾燥は慎重に行う。</li> <li>・素焼きは教師が行う。</li> </ul>
展開③ 制作：下絵付け、釉薬がけ	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料・見本を参考に、切り紙制作及び絵付けデザインの下描き。</li> <li>・切り紙の吹き墨(スパッタリング)及び下絵付け</li> <li>・釉薬がけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切り紙と日本の伝統模様等絵付け参考資料及び参考作品を用意する。</li> <li>・絵付けの技法を紹介し、実演する。</li> <li>・釉薬がけの技法を実演指導。</li> <li>・本焼きは教師が行う。</li> </ul>
まとめ 鑑賞、合評会	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した作品鑑賞。</li> <li>・自己評価プリントに反省感想記入。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作者の意図や工夫、良さを紹介。</li> <li>・作品は必ず持ち帰って使用させる。</li> </ul>

## ☆絵付けの資料（プリント）

### 下絵付け

#### ① 絵付けの進め方

デザイン・切り紙→道具・作品準備→素地掃除（スポンジで水ぶき）→下描き・マスキング等→絵付け

#### ② 絵付けの技法

- 1 骨描き ……模様の輪郭を線描きする ……面相筆
- 2 だみ ……模様の面を塗りつぶす ……彩色筆、だみ筆、平筆
- 3 吹き墨 ……切り紙を貼りスパッタリング、ブラシを指で弾く ……網、ブラシ
- 4 マスキング……ストライプ・市松模様等白抜き面に貼る ……マスキングテープ、彩色筆、平筆
- 5 ひっかき ……塗りつぶし面をひっかき白抜きにする……ニードル、彩色筆、平筆

#### ③ 絵付けの注意

- ・素焼きの作品は、せんべいくらいの硬さ 扱いは丁寧に！ぶついたり力をかけない
- ・手の脂× ベタベタ必要以上に触らない
- ・絵の具の濃さは素焼きの破片に描いて試し、盛り上がらない程度にふり水で調整する
- ・絵の具は（特に粉末のもの）沈殿するので、毎回よくかき混ぜて使う
- ・絵付けをした場所は触らない（こするととれる）
- ・裏底には描かない（特にベタ底のもの）

## ☆評価の観点

工芸への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
手作りの楽しさや喜びを味わい、身近な生活の中に、様々なもの作りの精神が生かされていることに気づくことで、工芸の伝統と文化に関心を持ち、主体的に創造活動に取り組もうとする。	身近で使われている焼き物の形や機能に目を向け、感性や想像力を働かせて、身近な生活の視点から心豊かに発想をし、よさや美しさを考え制作の構想を練っている。	粘土の特性と、板づくりの技法や利点を理解し、意図に応じた表現方法を創意工夫して計画的に制作している。	身のまわりにある器の形や装飾に関心を持ち、その意味や美しさを感じ取り、多様な視点から創造的に味わっている。

## ☆参考書籍

型紙陶芸 季刊 つくる陶磁郎 45 双葉社

陶芸実践 100 のポイント 知っておきたい焼き物づくりの基礎知識 誠文堂新光社

はじめて作る染付の器 「炎芸術」特別編集 シリーズやきもの入門 阿部出版

雪の模様切り紙 誠文堂新光社 暮らしを彩る美しい切り紙 永岡書店

江戸文様事典 河出書房新社 他 文様事典 図案集 各種